

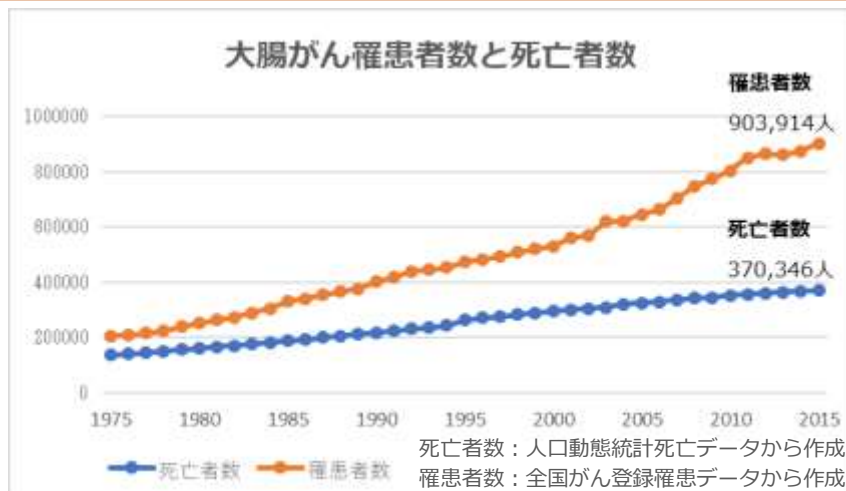
知っておきたい大腸がんのこと

編集・発行 野村病院 予防医学センター

現状

大腸がんの男女合計罹患数は**第1位**で一番かかりやすいがんです。40年間で罹患患者数は4.5倍に増えていきます。

大腸がんの男女合計死亡数は**第2位**（男性は第2位、女性は第1位）です。



特徴

大腸がんの進行は遅く緩やかなことが多く、**早期発見**できれば**完治の可能性が高い病気**とされています。一方、早期の段階では自覚症状がほとんどないため、検診を受けることが大切です。

検診と精密検査

※40歳以上の方は1年に1回の検診が推奨されています。

検診

便潜血検査

2日分の便を採取します。がんやポリープなどの疾患があると大腸内に出血することがあり、その血液を検出する検査です（通常は微量で目に見えません）。がんなどがあっても常に出血しているわけではないので、2日のうち1日分のみ陽性でも精密検査が必要です。

精密検査

大腸内視鏡検査

精密検査の第一選択です。内視鏡を肛門から挿入し、直腸から盲腸まで大腸の全体を観察します。がんやポリープの有無を確認し、ポリープの状態によっては切除することもあります。

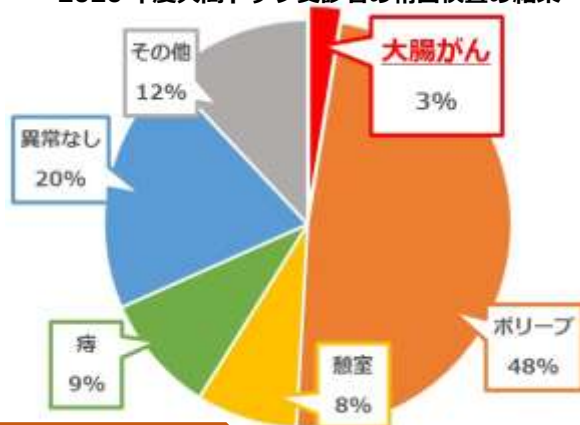


※便潜血検査の再検査は精密検査ではありません！

※大腸の奥まで観察することが困難な場合は大腸CT検査などを行うことがあります。

当センターでの
がん発見状況

2020年度人間ドック受診者の精密検査の結果



2020年度の人間ドックのあとに精密検査を受けた受診者のうち**大腸がん**が見つかったのは**3%**なんですね！

大腸がんだけでなく、良性のポリープが見つかった受診者も**48%**いました。

大腸ポリープの中には**がん化**するものもあるので、早期に切除することで大腸がんの予防になります。紹介状が発行されたら必ず精密検査を受けましょう！



最後に

がんは1回の検診で見つからないこともあるため、毎年定期的に検査を受けることが大切です。また、急速に進行するがんもわずかにあります。検診で異常がなくても**血便・腹痛・便の性状や回数の変化**など症状があれば医療機関を受診しましょう。

参考資料：国立がん研究センターがん情報サービス

ヘルスアップサポートでは健康に関する情報を発信中です。当センターのホームページで過去掲載分をご覧ください。興味がある方は是非一度ご覧になって下さい。

